

課の説明

- ・検体検査部門と生理部門に分かれています。
- ・下記のような内容の研修を行っています。

分類	習得すべき知識	経験すべき検査	判読・判定ができる
一般検査	尿路系の理解	尿沈渣・定性	赤血球・白血球・円柱の判読
血液検査	造血の理解	末梢血液像・骨髓像 CBC	各細胞の判定と理解 データの解釈 検体の取り扱い
生化学・血清	臨床化学血清検査の基礎	化学分析 感染症	データの解釈 検体の取り扱い
輸血検査	血液型・不規則抗体の 血液製剤の管理	血液型（A B O・R h）	血液型の判定
微生物検査	抗菌薬の理解	グラム染色 抗酸菌染色 迅速検査	陽性・陰性の区別 抗酸菌の判定 インフルエンザ・ マイコプラズマ等の判定
生理検査	心臓の刺激伝導系	心電図	不整脈・S T・T変化の理解
	心臓の解剖・血行動態	心臓超音波	正常・異常エコーの理解 壁運動異常、弁膜の異常など
	各血管の走行・名称	頸動脈及び上・下肢 動静脈超音波	プラーク・狭窄の有無、 ドップラーの読み方
	腹部臓器の解剖	腹部超音波	正常・異常エコーの理解
	脳の電気生理現象	脳波	正常・異常波形の理解
	各神経系の理解	筋電図他	正常・異常波形の理解

一般目標

症例によって臨床検査項目の選択並びに結果の解釈ができ、緊急検査として必要な血液・生化学的検査、生理機能検査が実施できる。

行動目標

- 1) 検査検体の採取を適切に行える。(技能)
- 2) 検体の取り扱い、保存方法が適切に行える。(知識)
- 3) 基準値がわかり、異常値及びパニック値に対して的確に理解できる。(知識)
- 4) スクリーニング的な検査が実施でき、検査結果を評価して診断に役立てる。(知識・技能)
- 5) 輸血に対する意義、管理方法、輸血療法と副作用を理解し実施することができる。(知識・技能)
- 6) 基本的な生理検査(心電図・呼吸機能)を実施でき、その結果を評価し診断及びコメントに対処することができる。(知識・技能)
- 7) 基本的な超音波装置の取り扱いや走査法の理解と超音波画像の解剖がわかる。(知識・技能)
- 8) 超音波画像から疾患の推定が行える。(知識)
- 9) 検査を受ける患者の心理に配慮できる。(態度)
- 10) 侵襲を伴う検査や治療は、患者に十分に説明して行う。(知識・態度)

経験目標

経験すべき検査として記載

指導体制

総責任者は医療技術部部长、実務責任者は臨床検査技師長が担う。
臨床検査指導体制に沿って臨床検査技師が指導する。
検査項目によっては責任医師に指導を仰ぐ。

〔担当分野と検査指導者(責任医師)〕

分野	責任医師	検査指導者
検体検査 (責任医師 部長 辻)	血液検査	道根るり子、中村小織
	生化学・血清	中西優子、小林千明
	一般検査	道根るり子、前田るみ子
輸血検査(責任医師 部長 玉木)		山路直人、森 恵子
細菌検査(責任医師 内科 坂部、豊嶋)		石黒千晶
生理検査	心臓・血管系工コー (責任医師 部長 世古)	別當勝紀、北村智子、青山明穂、 喜多真紀、谷佳織、中村まりの
	腹部・表在 〃 (責任医師 部長 小島)	日置俊、大辻幹、小林千明、 長谷川珠央、宮武真弓
	心電図など他関連 (責任医師 部長 笠井)	浅沼里依子、大辻幹、市川真嗣
	脳・神経生理 (責任医師 部長 宮)	辻寿美

週間スケジュール

	午前	午後	時間外
月曜日	臨床検査研修	臨床検査研修	
火曜日	臨床検査研修	臨床検査研修	
水曜日	臨床検査研修	臨床検査研修	血液研修会
木曜日	臨床検査研修	臨床検査研修	
金曜日	臨床検査研修	臨床検査研修	

定例研修会

会名	世話人	開催曜日	会場
臨床検査課病理課合同勉強会	学術委員会	年間5回	生理検査 カンファレンス室

不定例研修会

心エコー症例検討会：月1回程度 循環器科と合同、心電図勉強会 月1回
 外科・消化器合同勉強会 月1回
 他、一般、細菌、神経生理も不定期に行っている。

具体的な研修方法・留意事項

- 1) 8時30分に研修先に出向き検査指導者と当日の研修内容の説明を受ける。
- 2) 検査部初期臨床研修評価表（経験目標）に履修した項目をチェックする。
- 3) 研修医に必要な臨床検査の基本となる考え方を学ぶ。
- 4) 臨床検査課および臨床各科との合同勉強会には出席する。